

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-179	14-320	慶應義塾大学
題名(原題/訳) In with the old and out with the new? A comparison of the old and new binge drinking standards. 古いものが流行で、新しいものは流行遅れ? 新旧のビンジ(大量)のみの標準の比較		
執筆者 Corbin WR, Zalewski S, Leeman RF, Toll BA, Fucito LM, O'Malley SS.		
掲載誌 Alcohol Clin Exp Res. 2014 Oct;38(10):2657-63. doi: 10.1111/acer.12514.		
キーワード		PMID
一気大量飲酒(ビンジ飲み)、血中アルコール濃度、		25346506
要旨 <p>背景:</p> <p>ビンジ飲み標準として男性なら 5 以上ドリンク/一回(女性では 4 以上ドリンク)の場合を、悪い結果のリスクと関係しているという一貫した証拠がある。それでも、中毒(例えば、0.08g%の血中アルコール濃度[BAC])の指標として、この方法の適切性に多くの人が疑問におもっている。これらの懸念に答えるように、National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism task force(委員会)は、2 時間の間にという時間の条件をこの基準に加えることを勧めた。概念的にはアピールする、この新しい方法が悪い結果につながる飲酒をよりよく捕えるかどうかを決定するための努力はほとんどなかった。</p> <p>方法:</p> <p>本研究は、0.08g%の推定された BAC と悪い結果をもたらす経験に関して、新しいビンジ飲みの標準(2 時間の間に)と旧ビンジ飲みの標準(時間は関係なく)を調べた。これらの関係は、飲酒の減少を目指した無作為臨床試験に参加している、成人(N = 200)のつき合い酒のサンプルと大量飲酒若年成人(N = 168)のサンプルで調べられた。</p> <p>結果:</p> <p>時間の因子を加える目的に反して、新しい基準は古い基準に比較して 0.08g%の推定された BAC とより強く相関していることはなかった。加えて、両方の方法が同時に回帰モデルに入れられたとき、古い基準だけが悪い陰性結果をもたらす飲み方として有意であった。</p> <p>結論:</p> <p>これらの経験的ベースの結果は、時間の因子のない最初の標準が飲酒リスクのマーカーとして 2 時間にといい新しい標準より好ましい場合があることを示唆する。</p> <p>これらの所見は、アルコール中毒を簡単に同定すること、および悪い結果をもたらすリスクと関係する飲酒を効果的に同定するために、更なる研究が必要であることを示唆する。</p>		